

今回の探検先は…

●探検実施日：2009年8月20日（木）



株式会社モリタ

「人と地球のいのちを守る」というスローガンを掲げ、1907年より人の命と暮らしを守る設備や製品を世界へ送り出している消防車のトップメーカー。今回訪問した兵庫県の三田(さんだ)工場にはシェア95%を誇るはしご車をはじめ、空港用大型車種など各種消防車の製造・修理部門が集約されている。

◆◆◆探検前に考えた働く人に聞きたいこと

今回、アイテムしごと探検隊に集まったのは13人の子供達。最初は大人に囲まれて緊張していた面持ちも、仕事について話し合う中でほぐれていく。まず新聞折込の求人広告を見て、世の中にはいろいろな仕事があることを学ぶ。次に、1つの広告を作るために多くの人が関わっていることを教わった。続いて今回探検する「消防車を作る」仕事について話し合うと、組立や塗装、検査、修理などが出てきたが、これからのような話を聞けるのだろうか。働く人への質問を用意しながら、子供達は想像に胸をふくらませる。アイテムからはバスに乗って1時間、やってきたのはモリタの三田工場。広報室の東尾さんに迎ええられて、探検の始まりだ。



◆◆◆検査する人に聞いた完璧な消防車を作る仕事

建物の外に出ると、はしご車の放水実験が終わったばかり。子供達が見上げる空の上から、人を乗せたバスケットがスルスルと降りてきた。出てきたのは、品質保証部で検査を担当する徳岡さんだ。子供達は早速、用意してきた質問を投げかける。「やりがいを感じるのとはどんな時ですか?」という質問に「消防車を納めた先から『ありがとう』と言われると、一番嬉しいです」と徳岡さんは答える。良い消防車は速く、軽く、多くの人が乗れるなどの条件が揃っていないといけない。



「よし」と徳岡さんは答える。良い消防車は速く、軽く、多くの人が乗れるなどの条件が揃っていないといけない。

人の命を救いたいから、一生懸命。消防車を作る仕事を探検!

◆◆◆ピカピカの赤い車がズラリ消防車は全てオーダーメイド

モリタでは、全国の消防署・消防団に納める消防車を造っている。車庫でデビューを待つ新しい消防車に、子供達の熱い視線が集まる。VTRで会社の事業を見た後は、管理サービス本部の朝野さんによる案内工場へと入っていく。まず見えてきたのは修理工場だ。壁にはハンマーやパイプなどの工具が並べられ、溶接する音と匂いに現場の熱気が伝わってくる。作業する人は様々な道具を使い、パーツを車へ取り付けていく。「消防車はおよそ2千点ものパーツをトラックに付けて組み立てる、手造りの車です。お客様の要望に応じて造るため、細かいところが皆違います」とのこと。広い作業場に並ぶ消防車の数に圧倒される子供達。それぞれ大きさ、重さ、価格全てが異なるという。繊細な作業から生まれる消防車の仕様は、想像を超えるものばかりだ。



また、どんな消防車も最後に日本消防検定協会の検査に合格しないとお客様にお届けできないという。たぐさんのチェック項目をクリアして、初めて納品できるものなのだ。徳岡さんたちは何カ月も前から準備をし、検査に合格できるようなみんなで作るのだそうだ。そうして精密な部品を複雑に組み合わせて造る消防車だから、どんなミスも許されない。「みんなも勉強頑張つて、100点取れたら嬉しいよね」という徳岡さんに、子供達も納得の表情を浮かべた。



◆◆◆「空港化学車」には「はしご車」消防車のパワーは、技術の結晶

続いて長い廊下を歩きながら作業を見学。中でもひととき大きく、子供達の興味を惹いたのは空港の火災を消し止める「空港用化学消防車」だった。全長12m、幅3m、高さ3.8m、重さは実に4.3t。3億円という価格もうなずける。消防車は通常、既製のトラックから組み立てられるがこの車はシャシ(足まわり)から造られており、その製造だけでも1年、完成まで2年かかるという。これだけ大きくても、飛行機が胴体着陸したときに上がる炎を、走りながら消火できるようスピードも出ます」と朝野さん。説明に目を丸くしながらメモを取る子供達の表情は、ひと言も聞き逃さないよう真剣だった。



◆◆◆火よりも熱い「思い」が仕事の原動力

消防車を作るのは大変だけれど、人がその仕事に打ち込むのは理由があることを、子供達は理解したようだ。「どうしてこの仕事に就いたのか?」という質問に朝野さんが答える。「いろいろな人がそれぞれ考えを持って仕事をしているけれど、みんな『消防車造りを通じて人の命を助けたい』という思いを持って働いています」。工場の人が力を合わせて造った消防車の高い性能は、人の情熱が支えているのだ。アイテムに帰ってきて探検の様様をまとめる時間では、子供達が初めて見た仕事に驚き、感動した様子を発表してくれた。



感想コーナー

- 外国からも注文が来るとは、びっくりしました(本多くん)
- 働くと、大変だけれど楽しい事だと思いました(中野くん)
- 消防車をつくるのにこんなに多くの人の手がかかっていて、すごいな—と思いました(中村さん)
- モリタの工場を見て、消防車をつくるのは難しいと知りました(上埜くん)
- 消防車を作るのに2か月以上かかるとは意外でした(佐藤さん)
- 働くことは「人のためにつくすこと」だと思います(高澤くん)



株式会社モリタ
品質保証部 検査課
課長代理 徳岡 正義さん

とても熱心に工場を見学していただきました。こちらの説明や、目にした風景を一所懸命書きとめている姿勢が印象的でした。とくに男の子から高い人気を得ていることを改めて実感しました。質問事項も消防車の品質に関わる、いい質問を数多くいただきました。当社の見学を通じて、消防車の高度な技術や、ものづくりのおもしろさ、社員のチームプレーを感じていただけたと思います。

●「アイテムしごとと探検隊」ご協力のお願い

(株)アイテムでは、訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しております。子供達が「仕事」について考える機会と一緒に提供して頂けませんか?

お問い合わせはアイテム広報室まで ☎0120-938-989